



多忙過密労働、教員不足 これでは学校が持ちません！ 一斉定時アクション 5/20 枚方市駅宣伝

枚方教組は、5月20日(水)18:30から、全教が呼びかける長時間多忙化解消、教員定数増を求める「一斉定時アクション」の一環として、枚方市駅で宣伝、スタンディングを行いました。

宣伝で学校の長時間多忙化、教員不足の実態をアピール



ハンドマイクの宣伝で、学校現場の長時間勤務や教員不足、さらには貧困な教育条件の実態を訴えると、大きな関心を呼んでいました。

学校現場で休憩時間もほとんどとれない状況で働く人がほとんどで、小学校含め休日出勤が少ないのに、「給特法」で勤務として認められず、残業手当も支給されない状態が続いていること。

教員不足が広がっており、ダブルカウント講師が10数人の欠員のため、35人を超える教室で学習せざるを得ない学校があちこちに出てきて、子どもにも、先生たちにも負担やマイナスの影響が広がっていること。

市教委が教員不足の実態を明らかにしない中で、ただでさえ多忙で限界を越えているのに、先生の欠員が出て現場では先生たちが、2人分、3人分の仕事をこなして、授業や学級指導を支えていること。

その中でも、委員会が本来の授業や学級指導以上の、「先進的で特別な取り組み」を現場に強く求めて、「自主的に取り組む」ように誘導しているため、さらに現場の業務が限界以上となっていることなどを訴えました。

足を止めて注目、学校の実態を聞いて驚いて話しかけてくる市民

学校の先生たちが、駅前でスタンディングやハンドマイクで宣伝することに注目して足を止める人も少なくありませんでした。また、学校の実態を聞いて、驚いて話しかけてくる市民もおられて、普段知らされていない長時間多忙の実態や、子どもたちの教育活動が本当に大丈夫なのか、維持できていくのかという懸念で、大きな注目を集めた宣伝になりました。

対市要求書・交渉に向けてのアンケート

多忙化や教員不足、市教委からの課題、指示さらには、熱中症対策の施設、設備や市教委の予算の使い方など、組合として市教委に要求書を提出して、毎年交渉しています。法律でも定められている重要な取り組みです。ぜひ、たくさんの教職員の皆さん、多くの学校の実情をアンケートで聞かせていただけないでしょうか。

右のQRコードからお願いします。市費教職員、支援員さんも含めてお願いします。



危険な「国家情報会議」設置法案 いつの間にか国会通過、成立！？ 政府が自由に国民の情報収集、監視、世論誘導 欧米でも異例 議会、国民の目のチェックどこにもない

国会で高市首相は、外国などからのサイバー攻撃、スパイ、社会を不安定化させるフェイク情報への対処のために、情報収集・分析(インテリジェンス)のために必要な機関と強調して協力を推進。与党以外の野党の多くも正面から反対や対抗することができず、重大な懸念、欠陥そのままに成立してしまいました。

すでに、警察・自衛隊も国民の個人情報、プライバシー盗聴・収集可能に！？

昨年末の国会で「能動的サイバー防御関連法案」が成立させられています。これも外国などからのサーバー攻撃の防御、外国など攻撃元のサーバーへ侵入して無力化を可能にするためとされています。

しかし、本人への同意や事後の報告も全くないまま、警察と自衛隊までも、国民の通信情報(IPアドレス、住所、氏名等)を自由に収集可能にし、プライバシー、通信の秘密の権利を踏みこじっています。

国民のチェックも、監督も受けず、思い通りに国民監視、情報収集可能に

現在参議院で審議が進む「国家情報会議」設置関連法案は、さらにこのような政府の権限を強め、国民の目による監視やチェックを受けることなく、ほしのままに国民の全ての盗聴・情報を収集、監視できるようにするとともに、政府が統制された情報体制を作り、世論を自らに有利なように誘導、操作することさえ可能にするものとなっています。

この先、高市首相は「スパイ防止法案」の成立を狙っており、政府に都合の悪い人物、組織を、「スパイ」とレッテル付け、後付けで政府の都合のいいような「証拠」が捏造されかねない危険があります。

自由にパスワード・ロック解除のイスラエル製「情報収集機・システム」導入

すでに自衛隊は、7月にはイスラエル製の、スマホのロックを自由に突破して侵入できる機器の導入を決定しています。イスラエル製のこれらの機器は、これまでも欧米のマスコミ政治家などの情報を収集することに利用され、ガザ地区のハマス指導者、イランのハメネイ氏殺害、レバノンの敵対組織メンバーへのポケベル爆弾などにも活用されているとされます。

自衛隊も国民のプライバシー個人情報を収集して、監視可能にすることが当たり前になろうとしています。

欧米でもあり得ない、国民の目による監視、監督がどこにもない

欧米では、個人情報収集が可能な「スパイ防止法」が機能している国はありますが、どこも国民の代表である国会議員によって構成される監督、チェック機関となっており、国民の目が届く仕組みが定められています。また、個人情報を収集させる対象者に対して、情報収集の事実や内容について「事後通知」も行われます。

ところが、高市首相の定める法案には、このような規定が一切なく、監督、チェックもないまま政府がほしのままに、国民の知らないところで情報収集が可能になっています。

国会で、人権侵害の可能性を指摘されても「反戦デモなどに参加した一般市民を調査対象にすることは想定していない」から大丈夫と、開き直っている状態です。

今までも警察・自衛隊が国民への情報収集・国民監視 法案成立で加速に！？

警察・自衛隊では、法律に定められていなくても、環境運動、平和運動はじめとした市民や個人へのスパイ活動、情報収集活動を繰り返し続けてきており、その行為への反省も見られないのが現実です。

かつてイラク戦争時に自衛隊や警察が反戦運動の市民団体、個人の情報を収集、監視していたことが明らかになっています。これでは、日本は強権国家、独裁国家の国民監視と同じ道を進むと言わざるを得ません。

高学歴・オフィス職より“現場職”に注目が！

NHK クローズアップ現代

借金(奨学金)抱え、非人間な労働より、新3K「関心・共感・感謝」の働き方

5/20NHK クローズアップ現代「オフィスより稼げる“現場職”!? これからの仕事は」番組内容で注目されるのは、「稼げる」よりも、人間の本来の働き方であり、キャリア教育を求められ子どもたちを教えている、私たち自身が立ち止まって考えるべき内容が随所に見られました。

賃金上昇、現場職がより高く、高校生求人倍率も、工業高校生30倍！？

厳しい受験競争、就職競争勝ち抜いても、「すぐに退職代行依頼」「会社都合でリストラ」「厳しいノルマ、評価で、パワハラも」...

しかし、現実の就職市場では、ここ10年大卒生(1.66倍)より、高卒生の求人倍率(3.69倍)が高く、工業高校生では30倍を超えているとされます。賃金変化もホワイトカラーはここ5年で10%の変化の一方で、ブルーカラーと呼ばれる現場職の伸びが高く、タクシー運転手など50%、60%に上る職種も出ています。

現在、企業は急速なICT, AIの発展の中で、オフィス職の大規模なリストラを、黒字業績の中で強力に進めています。

近年企業で活躍していたり、管理職で中心を担っていた人が、現場職に転職、収入の安定と働き方の向上に大きな変化が出ているとされます。

3K「きつい・汚い・危険」から新3K「関心・共感・感謝」へ 「働きがい」見出した

先生の働き方と重ねて考えずにいられない

保険会社勤務からタクシー運転手に転じた女性。年収も200万円増え、充実感が感じられるといいます。

大手企業管理職からハウスクリーニング業へ転職した60近くの男性は、転職で「働きがい」を見出したといいま

す。直接お客様とふれあい、感謝やねぎらい、仕事を評価してもらえる言葉が聞けることが、企業のオフィス業務と大きく違っているといいます。

リクルートワークス研究所の古屋星斗さんは、高齢化、人口減少の中で「生活を支える職業への需要が高まっている」として、もともと現場職は3Kと呼ばれていたが、新3K「関心・共感・感謝」でとらえる人が圧倒的に多くなっているといいます。

この点は、先生たちの先進国で最も貧困な教員数、少人数学級の状況で、世界の先進の教育を求められる、学校の実情を無視した異常な働き方に重ねて考えさせられるとともに、新3Kの「関心・共感・感謝」のキーワードこそ現場で実感できるように、上から求められる課題より、現場が必要と考える教育活動が優先される学校に変えていくべきです。

「10年後亡くなる」といわれた仕事、 実際はホワイトカラーだった

今、アメリカでは「借金して大学」より現場職に人気

かつて「主体的学び」への転換が強調され、今までの教育はダメとさんざん言われた根拠に、「10年後今の仕事の7割(対面の業務、作業職)がなくなる」などの言説が、学校・市教委の研修会でもふりまかれていました。

しかし、いまアメリカはじめ先進国では、AI/IT 技術者・ホワイトカラー狙い撃ちの乱暴なリストラが吹き荒

大手企業管理職からハウスクリーニング業へ転職
■「管理職は評価を気にしている仕事でもう疲れた。」
■「直接お客様とふれあえて、いろいろな声が聞けて楽しい。技術を持つことによって、大げさでなく人生が楽しくなる」
■「自分のやりたいことをやって売り上げは後からついてきた」

れています。ホワイトカラーがAIに仕事が奪われる嵐が吹き荒れています。

この中でアメリカでは、世界でも異常に高い学費で高額の借金(奨学金)抱えるより、技術、資格を身に付けて現場職を目指す動きが急速に広まっています。

「建設業を選んだのは、学費のために借金したくないからさ。「何千万円もの借金を背負って大学を卒業するわけではないし、AIに仕事を奪われることにもならない」(職業訓練校で電気技術者を目指すアメリカ青年)多額の借金を抱え、就職しても、限界をはるかに超えるノルマと厳しい評価、企業の都合で突然首切りに。そんな人生より、資格や手に職をつけ、自分の技術で見通しの持てる人生を選ぶ若者が増えています。

「キャリアパスポート廃止、見直し」!?

AI・ICT偏重の学校 大企業、政府の求める人材教育でいいのか?

2020年から導入された「キャリアパスポート」の廃止、見直しが文科省で検討されています。文科省は「学んだことを振り返りながら、将来の生き方を考えたりする活動を行う」と例示したことで、指導要録のように法令の根拠もない文書なのに、小中学校での作成、引継ぎが「事実上義務付け」され、現場での困惑と業務負担に追われていました。

そのものを廃止するものではなく、デジタルベースでの学習履歴、活動履歴蓄積にシフトするとしてます。小学生段階から常に自分の学習状況、特別活動を振り返り、次の目標を立て、実現に向けてどうしていくのか意識づける、企業や国家の成長戦略にとっては都合よくても、本当に子どもの教育、人格形成に必要なのでしょうか。

「私たちは発展(成長)するために生まれてきたのではなく、幸せになるために生まれてきたのです」

昨年亡くなった「世界で最も貧しい大統領」といわれるウルグアイのホセ・ムヒカ氏は、企業の経済発展最優先の社会の在り方に警鐘を鳴らしています。

ICT活用で「調べる」「まとめる」偏重で、「テキストつぎはぎ」の「浅い学び」に!?

AI時代に、AI・テクノロジーを活用、駆使できる大人に育てることが重要と、タブレット、ICT活用を進めてきたのが今の学校ではないでしょうか。

現在、次期学習指導要領に向けて論議が進む中教審や各部会などでの論議で、ICT活用の授業が進む一方で、さまざまな知識や情報を「調べる」「まとめる」ことが中心になり、テキストのつぎはぎになってしまい、「浅い学び」にとどまっているという問題が取り上げられています。

具体的なイメージや実感、実際の体験と結びつけ、知識や情報をさらに関連付けて理解していく「記号接地」が中教審でも取り上げられます。その中心にいる今井むつみ氏は「身体的な感覚や経験と結びつく(接地)」ことがない知識は定着しないとその重要性を強調しています。

大企業や政府の強い要請で学校に求められてきたこれまでの「新しい教育」について、ホワイトカラーが切り捨てられ、現場職が注目される現在、それこそ立ち止まって考えるべきではないでしょうか。

数えきれないテストと評価 社会でも「ガクチカ」「シゴデキ」 苦しめられる若者

中教審では評価の見直しも言われていますが、細かすぎる、評価しすぎる今の学校評価で、「人間性」「学びに向かう力」までも対象にされ、学力テストなどで、企業・政府が求める資質・能力が測られ、評価されます。

大人になっても「学生の時に力を入れてきたこと」を聞かれ(ガクチカ)、職場に入れば、自分から次々必要とされることを先取りして仕事をこなしていく(シゴデキ)が求められ、現実にはうまくいかないことばかりの中で、自分を追い詰めていく若者が増えているといわれます。

失敗や、うまくいかないことの中でも、周りの人とつながり、支え合いながら仕事や生活に向き合い、自分の存在が周りに認められている実感を持てる、そんな社会を求めていくことが必要ではないでしょうか。